

学位論文審査の要旨

2015 年から適用された改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムでは、卒業時までには修得すべき「薬剤師として求められる基本的な資質」が定められている。さらに、医療人としての教養、実践力を低学年から段階的に身につけさせるため、体系的かつ順次性のある教育プログラムの実施が求められている。申請者は、過去、一貫して、初年次教育の学習プログラムのエビデンスに基づいた教育実践とその検証研究を展開している。本論文では、6 年制薬学教育の初年次教育の中で最も重要視される「早期臨床体験」の効果的な学習方略の検討を目的とした研究成果が論述されている。

先ず、先行の薬学領域での教育研究の質を検証し、現状、質の高いメタアナリシスに耐えうる研究成果が集積されていないことを示した。この結果をもとに、「効果的な初年次教育とは」という問いを解決すべく、良質な研究計画を立案・遂行し、次の事実を明らかとした。1) 早期臨床体験の学習成果に影響を与える因子を探索し、訪問施設での見聞・体験の内容の差が学習成果に影響を与えること。2) 学習方略の違いによる学習効果を比較し、教育目標に合致した学習方法を選択する必要があること。最後に、以上の結果をもとに、効果的な早期臨床体験の学習プログラムを提案している。

以下、本学位論文の審査結果を示す。

第 1 章では、6 年制薬学教育の初年次教育に関する先行研究の質やエビデンスの集積について検証している。即ち、早期臨床体験での学習モチベーションの向上に対する効果に言及した論文をシステムティック・レビューにより抽出し、次いで、メタアナリシスを行っている。その結果、早期臨床体験は学習モチベーションに小さいながらもポジティブな影響を与えることを明らかとした。一方、早期臨床体験に関する先行研究では、研究間の研究手法・検討項目などに幅があるため、結果の統合が困難で、現状では質の高いメタアナリシスに耐える研究成果が集積されていないことを示した。

第 2 章では、第 1 章の結果をもとに、早期臨床体験について、メタアナリシスに耐える良質な研究計画を立案・遂行している。即ち、摂南大学薬学部で実施された早期臨床体験の学習成果に影響を与える因子をアンケート調査の因子分析、クラスター分析等の手法によって解明することを試みた。その結果、学生が事前（施設訪問前）に有する薬剤師に対するイメージや業務内容の理解に関わらず、訪問施設での指導者（薬剤師）が行う対人業務についての見聞・体験によって学習効果に差が生じることを明らかとした。

第3章では、第2章で示された「見聞・体験によって学習効果に差が生じること」ことを補完するため、施設訪問後に学内で実施すべき学習プログラムについて検討している。即ち、小グループ討議として一般に用いられている KJ 法と World Café (WC) について、教育目標や学習段階に合致した適用の指標となる科学的なエビデンスの創出を試みた。小グループ討議 (KJ 法あるいは WC) の前後に自由記述によるアンケート調査を行い、結果をテキストマイニングにより比較した。その結果、KJ 法では、キーワード数が増加したカテゴリが一部であったため、様々な情報の中から最も注目すべき論点を抽出し、その問題に対してより深く議論が進む傾向が示された。一方、WC では、多くのカテゴリでキーワード数が増加したことから、多様な情報や問題点を共有し、メンバー内で拡散できることが示された。以上の結果から、早期臨床体験で学生によって経験する内容が異なることを補完するには、WC が適当であることを明らかにした。

以上の新規知見は、6年制薬学教育に求められている低学年次からのプロフェッショナリズムの涵養や学習意欲の醸成を目標とした初年次教育、特に早期臨床体験の発展・充実に先駆的に貢献すると思われる。

以上の観点から、本論文は博士(薬学)の学位論文として相応しいと認定した。